

8章 公園緑地等の管理・運営方針

8-1 はじめに

緑には、人々の生活や都市の環境を形成する上で大切な役割があり、さまざまな機能をもった緑を適正に配置し、快適な都市環境の形成を目指していくことは第7章までの中で述べられてきました。

帯広の森をはじめとした樹林地、街路樹、民有地の樹木やいろいろな活動の場となる公園に与えられた役割はさまざまなものがあり、その役割を維持していくための管理を適正に実行していくことで、より豊かな緑が創られ、快適な都市の環境が形成されていきます。

公園や街路樹などの管理は行政が中心となり行ってきましたが、近年の社会情勢の変化や市民ニーズの多様化などから、管理の内容も多岐に渡り管理に要する費用も年々増加傾向にあり、行政だけでは対応が難しくなっています。

このことから、本計画では緑の創出や保全の大切さとともに、既存の緑の管理運営を重要な事項として捉え、管理の現状や緑を取り巻く社会的な背景、市民の視点での意見などから、質の高い豊かな緑づくりと円滑な管理・運営をすすめるため、基本方向及び展開の方向を示していきます。

なお、具体的な管理・運営への取り組みについては、公園緑地、街路樹、民有緑地など緑の形態に応じた管理・運営の指針を別途策定し行動していきます。

8-2 管理・運営の現状と課題

公園緑地等の日常的な管理をとおして課題を整理します。

(1) 管理の現状と課題

【公園の管理】

- 170箇所の公園緑地の内、既に20年を経過した公園が約40%に登り、年々施設の老朽化がすすんでいます。その中で公園施設の点検補修は行政が中心となり行っていますが、公園の草刈りや清掃は、市民と行政が行っています。

【街路樹の管理】

- 街路樹は定期的な管理として、夏期・冬季の枝の剪定及び植樹樹の草刈りが行われています。それ以外では危険木の処理や害虫駆除などで随時対応しています。

【管理の経費】

- 施設の老朽化や市民要望の多様化など、施設の安全管理や維持・補修に要する費用は増加の傾向にあり、厳しい経済情勢の中では十分な費用の確保が難しい状況にあります。

【植生の環境】

- 樹木や芝・草花の植生条件や成育に必要な広さなどは、良好な環境ばかりではなく、根張りの不足や成育の障害が見られます。

課題の整理

【安全な利用】

- 公園施設の老朽化も進行しており、日常的に安全が確保され、安心して利用できるよう適切な管理が必要となります。
- 子供達の遊び方や利用形態の変化など、市民ニーズに対応した公園が必要となります。

【植生環境の考慮】

- 樹木の特性や樹形、緑の量感などを考慮した管理が必要となります。
- 植生環境の悪化や適期を過ぎた樹木等の適正な措置を行い、倒木被害の防止や樹木の保全が必要となります。

【効率的な管理】

- 管理経費の増加に対する財政負担にも限界があり、管理の方法や体制の見直しも含め、効率的な管理の仕組みづくりが必要となります。

【管理の情報発信】

- 公園や街路樹の状況、管理に関する情報を自由に知ることができる仕組みや管理に対する市民理解が必要となります。

8 - 3 社会的な背景と市民の意見

(1) 社会的な背景から

【社会的な要請への対応】

- 都市の環境負荷の低減や資源循環型社会に向けた管理の方法を考えていくことが大切になっています。
- 管理作業により発生する枝や間伐材を資源として利用・活用をはかることが必要です。

【少子高齢化社会への対応】

- 世代構成の移り変わりから、利用者が求める公園のあり方も変化しており、時代に対応した管理の方法が求められています。
- 高齢者の活動の場として、管理運営に参加できる仕組みが必要となっています。

【市民協働のまちづくり】

- 管理運営に参加しやすい仕組みづくりや管理に関わる人材の育成が必要です。
- 地域の状況や利用形態などに応じ、市民の自主的な利用がはかれる仕組みが必要です。

【自然環境への意識の高まり】

- 都市内の樹林などは、身近な自然環境として、また野生生物の生息環境として適正な保全を行っていくことが必要です。
- 緑の大切さを伝え、緑とのかかわりを持つよう子供たちが参加できる仕組みが大切になっています。

【さまざまな活動団体との連携】

- 専門機関やボランティア活動、NPOなどと連携した管理運営への取り組みを検討する必要があります。

(2) 市民の意見

公園緑地等を利用する市民の立場として、まちづくり検討委員会から出された管理・運営に関する意見を整理します。

【きめこまやかな公園の管理運営】

- 公園施設の老朽化等による安全管理への対応を速やかに行う必要があります。
- 市民が中心となり自由に利用できる公園があればよいと思います。
- 子供が少なく高齢者が増えており、社会の変化に応じた利用ができる公園が必要です。

【樹木の特性に応じた管理】

- 植樹柵の大きさや土壌の改善が必要です。
- 植樹柵は草花などによる植栽管理を行う必要があります。
- 老化や成育不良などの樹木に適正な措置を行う必要があります。
- 公園の樹木や街路樹など、周辺環境や樹木の特性に応じた管理を行う必要があります。

【みんなで考える管理】

- 地域の活動として、町内会単位の公園管理を考える必要があります。
- 市民参加で計画から管理までを考えた公園づくりをすすめる必要があります。
- 町内会や企業が公園の樹木などの管理を行う日を設ける必要があります。
- ボランティア団体などが参加しやすい方法を考える必要があります。
- 市民、専門機関、地域団体、行政などが協力した管理を考える必要があります。
- 管理の実践講習などで地域の人材を育てる必要があります。
- 子供たちのかかわりをふやしていく必要があります。

【枝・葉の再利用】

- 公園、街路樹、企業、家庭などから出る伐木の利用を考える必要があります。
- 公園や街路樹の剪定枝をチップ化し、除草効果などとして活用することが必要です。
- 街路樹などの枯れ葉の処理について検討が必要です。

8-4 管理・運営の課題のまとめと方向性

管理・運営の課題

- 【安全な利用】
- 【植生環境の考慮】
- 【効率的な管理】
- 【管理の情報発信】

社会的な背景と市民の意見まとめ

- | ■社会的な背景 | ■市民の意見 |
|-----------------|------------------|
| 【社会的な要請への対応】 | 【きめこまやかな公園の管理運営】 |
| 【少子高齢化社会への対応】 | 【樹木の特性に応じた管理】 |
| 【市民協働のまちづくり】 | 【みんなで考える管理】 |
| 【自然環境への意識の高まり】 | 【枝・葉の再利用】 |
| 【さまざまな活動団体との連携】 | |

管理・運営の方向性

1. 時代に対応した管理・運営
2. 市民協働による管理・運営
3. 生物環境に配慮した管理・運営

管理・運営の方針

8-5 管理・運営の方針

親しまれながら持続していく緑として、効率的な管理・運営をすすめるため4つの方針及び11項目の展開方向を示していきます。

(1) 安全で安心して利用できる公園緑地として、 適正な管理をすすめます。

公園緑地は、都市のオープンスペースとしてさまざまな活動の場となるもので、施設の安全性を確保し、人々が安心して利用できる公園として管理していくことが必要です。

①安全・安心な公園

市民が安全に、安心して利用できる公園として、日常的な安全管理や防犯を考慮した管理をすすめます。

②社会の変化に対応した公園

利用形態の変化や少子高齢化など、利用者が求める公園のあり方が変化しており、時代に対応した管理・運営を考えていきます。

(2) 市民協働による管理・運営の取り組みをすすめます。

公園や街路樹・民有緑地は、身近な場所で日常的に関わる機会が多く、市民・企業・行政が協働して管理運営に携わることで、人々に親しまれ大切にされる緑として持続され、豊かな緑がつくられていきます。

①市民協働の仕組みづくり

市民と協働して公園緑地等の管理・運営が行えるよう、役割を分担し、参加しやすい仕組みを考えていきます。

②管理・運営への人材育成

管理・運営に参加する組織づくりや管理に関わる人材育成、子供たちとの関わりなどを考えていきます。

③情報の共有

公園緑地等の施設状況や管理方法についての情報を発信し、管理についての理解と認識を深め、市民の積極的な参加を促していきます。

(3) 植物などの特性や生物環境に配慮した管理をすすめます。

公園の樹木や街路樹・民有緑地の樹林・草花などは、それぞれの特性や周辺地域の状況、野生生物の生息等に配慮した適正な管理につとめ、より一層豊かな緑をつくれます。

①樹木の特性に応じた管理

公園の樹木や街路樹などは、木々の特性や樹形・量感など、樹種に応じた管理をすすめます。

②植生環境の改善

植栽スペースや土壌の条件など、植物が適正に生育する環境づくりをすすめます。

③野生生物に配慮

小動物などの生息・生育環境に配慮し、周辺地域と調和した管理をすすめます。

(4) 資源として利用・活用をすすめます。

公園緑地や街路樹から発生する剪定枝や間伐材・刈草などについて、資源としての利用・活用をすすめます。

①公園資材への利用

剪定枝や間伐材は、ベンチや遊具などの手作り施設として活用をはかります。

②市民利用の仕組み

市民の創意工夫によるガーデニングやオブジェの制作など、さまざまな活用が行える仕組みづくりを行います。

③新たな取り組み

緑に関する専門家や研究機関などとの連携をはかり、新たな利用・活用について検討していきます。

